

潘基文国連事務総長を 迎えて

6月30日から3日間、わが国を訪問した潘基文国連事務総長を迎え、朝食懇談会を開催した。気候変動など地球規模課題に対する企業の役割・責任について認識を一にする機会となった。



スピーチをする潘基文国連事務総長



潘国連事務総長を中心に、握手を交わす桜井代表幹事と有馬GC-BJ議長

来日中の潘基文国連事務総長を招き、7月1日、経済同友会とグローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク(GC-JN)の共催による朝食懇談会が開催された。経済同友会からは、桜井正光代表幹事や副代表幹事、関連委員会委員長が参加し、17名の企業経営者が、潘事務総長と気候変動問題をはじめとする地球規模の課題に関する国連の取り組みや企業の役割と責任をめぐり、意見交換が行われた。

世界金融・経済危機の対応が迫られ、グローバル・レベルでの解決が求められる問題が山積し、特



経済同友会から参加した桜井代表幹事



歓迎の挨拶を行う有馬利男氏



閉会の挨拶を行う秦喜秋氏

プログラム(7月1日(水) 8:00~9:30)

敬称略

- 歓迎挨拶(桜井正光 経済同友会 代表幹事)
- 歓迎挨拶(有馬利男 GC-BJ議長/国連GCボードメンバー)
- 冒頭挨拶(潘 基文 国連事務総長)
- 意見交換
- 閉会挨拶(秦 喜秋 GC-BJボードメンバー/三井住友海上グループホールディングス 会長)

※国連グローバル・コンパクト(GC)は、各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組み。2003年10月に、日本でのローカル・ネットワークとして「グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク(GC-JN)」が発足。2008年5月に、GC-JNの方向付けや重要なメッセージの発信を行い、日本のCSRのリード役を担ってゆくことを目的として「GCボード・ジャパン(GC-BJ)」を編成した。

に本年12月に開催されるCOP15に向け、温室効果ガス削減に向けて“ポスト京都”の国際的枠組みが合意できるかどうかの正念場になっている中で、わが国の経済界幹部が、国連事務総長とじかに意見を交える貴重な機会となった。

冒頭、歓迎挨拶に立った桜井正光代表幹事は、「地球温暖化問題に関して、12月のCOP15に向けて、今まさに世界的な議論が進んでいるが、重要なのは、公平性を担保した上で主要排出国の全員参加による枠組みを作ることだと思っている。これは必ず達成しなければならない課題であり、また必ず達成できると私たちは信じている」と述べた。これに対して、潘氏は「中期目標を取りまとめられた日本国内での努力を多くしたい。日本が、技術開発などでさらなる排出削減に努力されることに期待している」「世界は今、気候変動、金融危機、食料危機など複数の危機に直面している。

そのような中で、日本企業が責任あるビジネスにおいて大きな役割を果たされていると理解している。出席の方々には成功したビジネス・リーダーであり、ステーツマンでもあり、コミュニティ・リーダーでもある。問題解決に向けて政治に対し積極的に働きかけてほしい。政府・企業・市民社会が協働し、子供や孫にサステイナブルな住みやすい社会を残すことが重要である。企業はイノベーションの最前線にあり、その役割は大きい」と、出席者に対するメッセージを発した。

その後、潘氏と参加者との間で、先進国と新興国・途上国の利害対立の問題、新型インフルエンザのワクチン開発における日本企業の貢献、さらに生物多様性の課題等について、活発な意見交換が行われた。限られた時間にもかかわらず、さまざまな角度から発言が続き、参加者は問題とその解決への意識を共有した。